

平成 29 年度実施

食の安全・安心に関するアンケート調査

結果について

平成 30（2018）年 1 月

結果概要

- ✧ 食材の購入も調理も行う人は男性では 40.0%、女性では 88.9%、購入も調理もしない人は男性では 21.6%、女性では 6.0%。
- ✧ 流通している食品が安全・安心だと思っている人は回答者全体の 71.6%。
- ✧ 流通している食品が安全・安心だと思っていない人の理由は「輸入食品に頼りすぎている」が最も多い。
- ✧ 食の安全に関心がある項目は「細菌やウイルスによる食中毒」が最も多い。
- ✧ 食の安全で知っている項目は「調理を行う前や食事の前などに手を洗う」が最も多い。
- ✧ 食の安全に関する情報は「テレビ」から得ているが最も多い。
- ✧ 市から発信してほしい食の安全に関する内容は「食中毒」に関するものが最も多い。
- ✧ 食の安全に関することを行政機関に相談したことがある人は回答者全体の 1.0%
- ✧ 食の安全に関することを行政機関に相談できないと感じる理由は「相談窓口を知らない」が最も多い。

目次

調査方法	2
調査結果	3
その他結果	17
単純集計結果	20

調査方法

対 象：市内に居住する満 18 歳以上の市民 2,000 人

抽出方法：住民基本台帳より無作為抽出

調査方法：郵送法

調査期間：平成 29（2017）年 10 月 16 日～11 月 13 日

回答者数：939 人（有効回答数：929 人）

回 答 率：47.0%（有効回答率：46.5%）

有効回答者 アンケートが回収された 939 人のうち、性別・年齢ともに記載されていた 929 人について有効回答者（以下、回答者）として集計を行った。性別・年齢構成は以下の通りである。

（単位：人）

性別＼年代	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上	合計
男性	3	26	45	59	63	88	61	35	380
女性	9	39	69	97	96	97	92	50	549
合計	12	65	114	156	159	185	153	85	929

調査結果

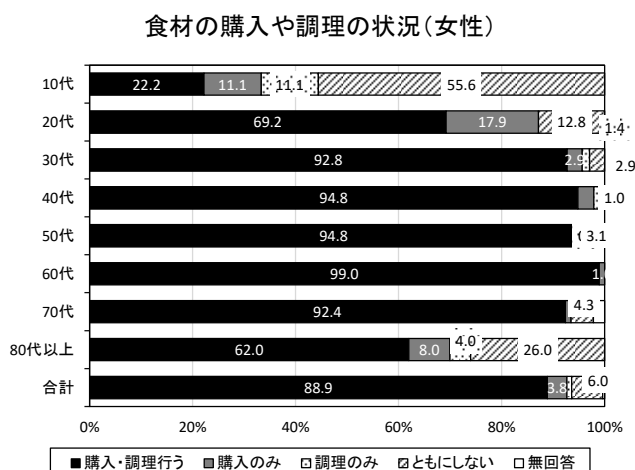
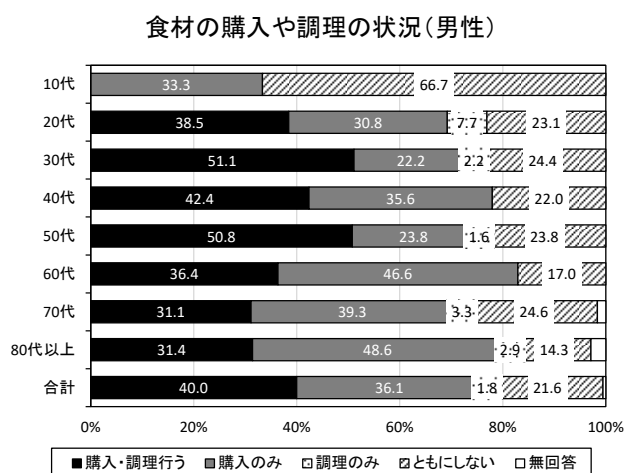
この項では主に性・年齢別結果の図を掲載している。一つ選択の問いの回答者全体の結果については巻末資料（単純集計結果）を参照のこと。

【問1】 食材の購入や調理に関して、あなたの状況に最も近い項目は何ですか。

（一つ選択）

回答者全体では、「購入及び調理を行う」は68.9%、「購入はするが調理は行わない」は17.0%、「調理はするが購入はしない」は1.3%、「購入・調理ともにしない」は12.4%であった。

「購入及び調理を行う」割合を性別にみると、男性では40.0%、女性では88.9%であり、年代別では、男性は30代・50代が高く、女性は60代が最も高くなっていた。

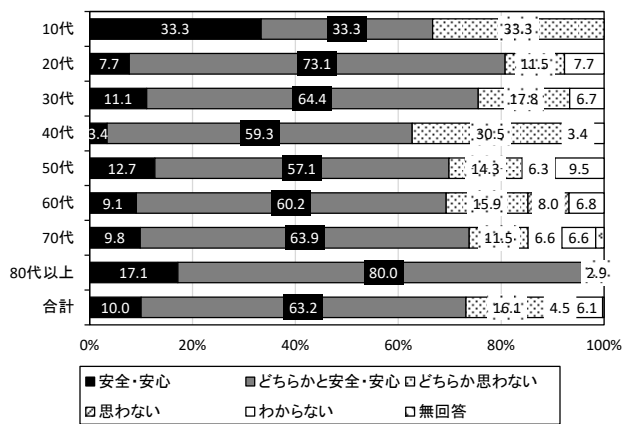


【問2】 あなたは、現在流通している食品や飲食店で提供される食品は、安全・安心だと思いますか。

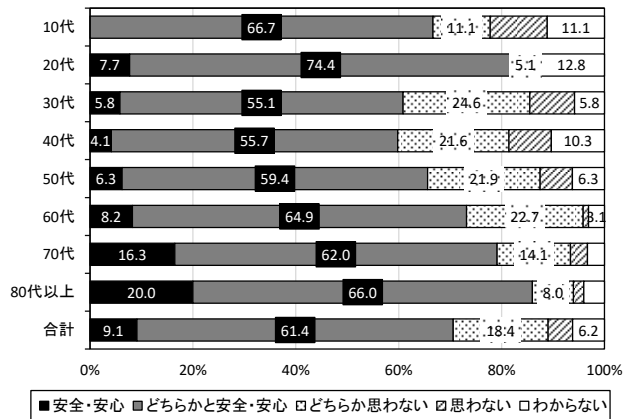
（一つ選択）

「安全で安心だと思う」又は「どちらかといえば安全で安心だと思う」割合は回答者全体の71.6%であった。性・年代別にみると、「安全で安心だと思う」又は「どちらかといえば安全で安心だと思う」割合は、性別では、男性73.2%、女性70.5%であり、男女とも40代で割合が下がり、その後年代とともに上昇していた。

食品は安全・安心か(男性)



食品は安全・安心か(女性)



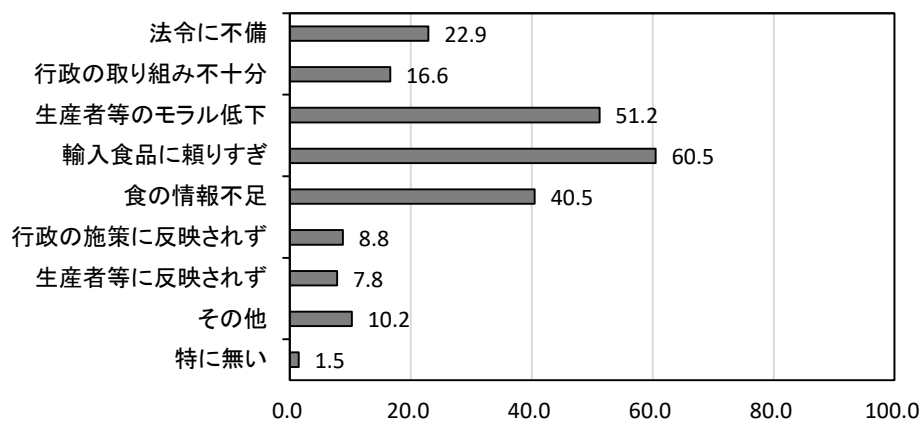
【問3】問2で、「ウ」または「エ」と回答した方にお聞きします。

あなたが、食品が安全・安心だと思わない理由は何ですか。(複数選択可)

問2で「どちらかといえば安全で安心だと思う」又は「安全で安心だと思わない」と回答した205人に対して、食品が安全で安心だと思わない理由を複数回答で尋ねた。「輸入食品に頼りすぎている」(60.5%)が最も多く、以下「生産者や事業者のモラルが低下している」(51.2%)、「食の安全・安心に関する情報が不足している」(40.5%)の順であった。その他の意見としては、「生産者が使用している農薬や量が全く消費者に届いていない、安心と全く思えない」「添加物が多すぎる」「コストを下げる為安価で不安な材料を使っている」などの意見がみられた。

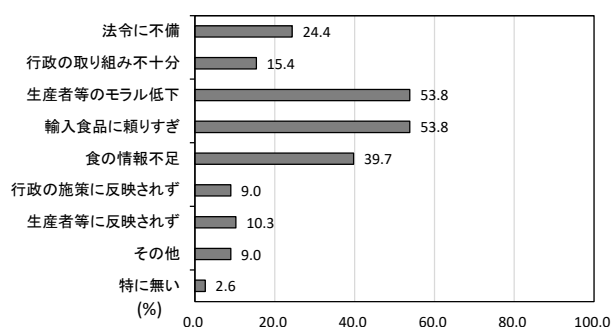
安全・安心だと思わない理由(男女)(複数回答)

N=205



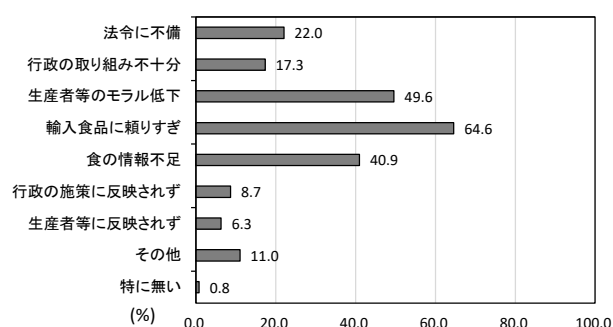
安全・安心だと思わない理由(男性)

N=78



安全・安心だと思わない理由(女性)

N=127



【問4】あなたが、食の安全について関心がある項目は何ですか。(複数選択可)

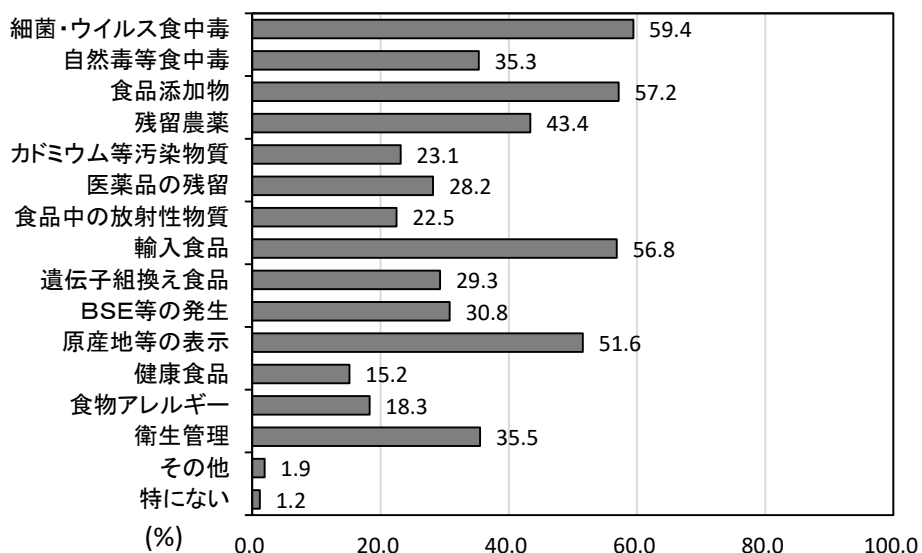
回答者全体では、食の安全について関心がある項目は「細菌やウイルスによる食中毒」(59.4%)が最も多く、以下「食品添加物」(57.2%)、「輸入食品」(56.8%)の順であった。

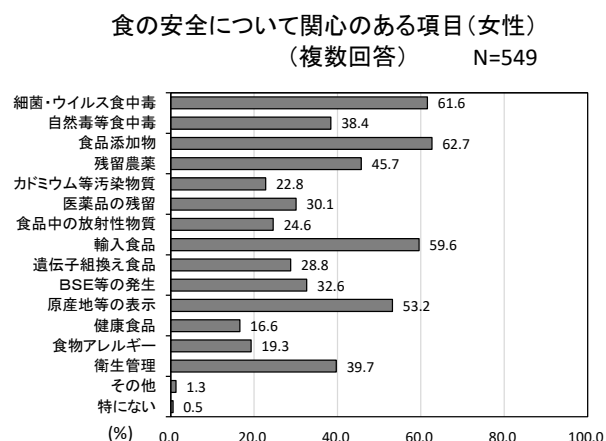
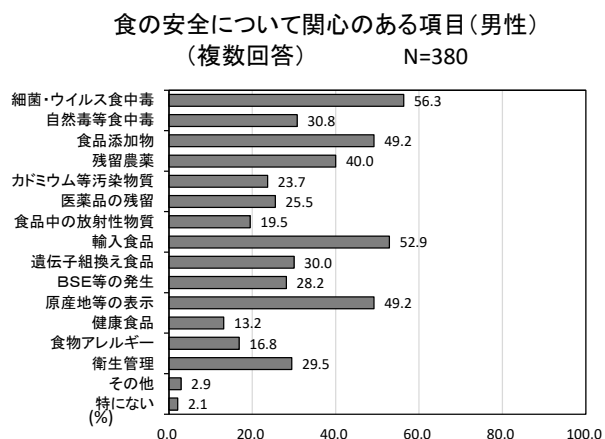
その他の意見としては、「従業者のモラルの低下」「消費期限、スーパーマーケット等の食をあつかう人の教育」などの意見がみられた。

食の安全について関心のある項目(男女)

(複数回答)

N=929

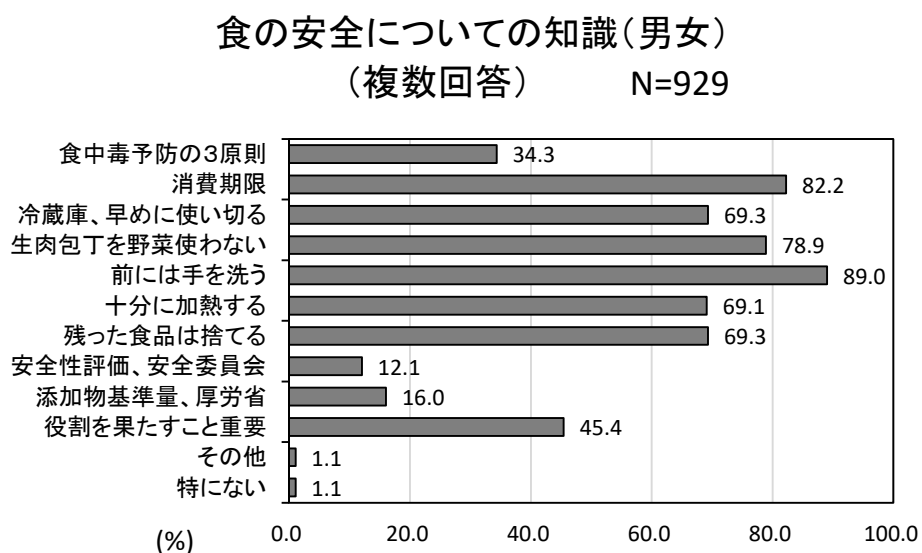




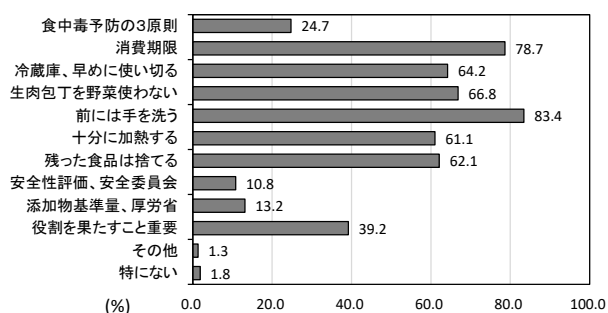
【問5】食の安全についてあなたが知っていることは何ですか。(複数選択可)

回答者全体では、食の安全について知っていることは「調理を行う前や食事の前などに手を洗う」(89.0%)が最も多く、以下「消費期限は安全に食べられる期限を示すもので、表示があれば確認し、購入する」(82.2%)、「生の肉や魚を切った包丁やまな板を洗わないまま、加熱せずに食べる果物や野菜のなどの調理に使わない」(78.9%)の順であった。

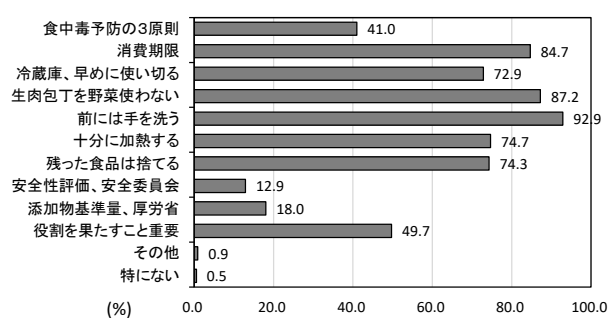
その他の意見としては、「100%大丈夫なものはない」「細菌は目に見えないので常に注意する」「少しでも疑いがある食品は廃棄する」などの意見がみられた。



食の安全についての知識(男性)
(複数回答) N=380



食の安全についての知識(女性)
(複数回答) N=549

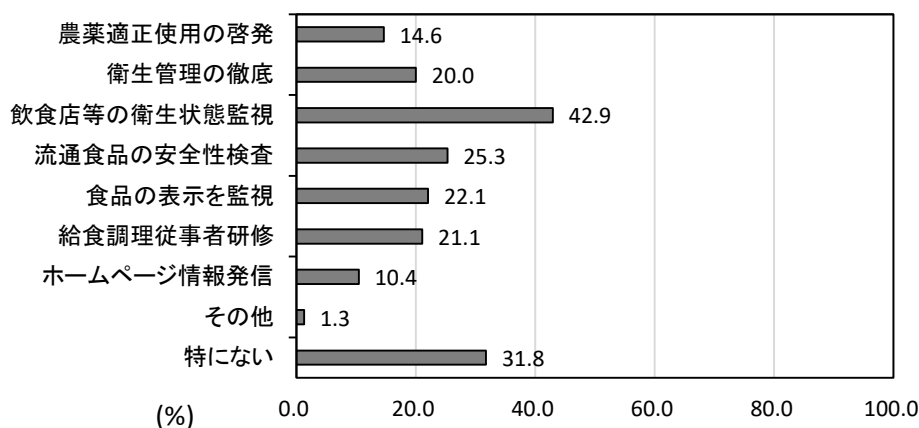


【問6】名古屋市が食の安全・安心の確保のためにやっていることについて、あなたが知っていることは何ですか。(複数選択可)

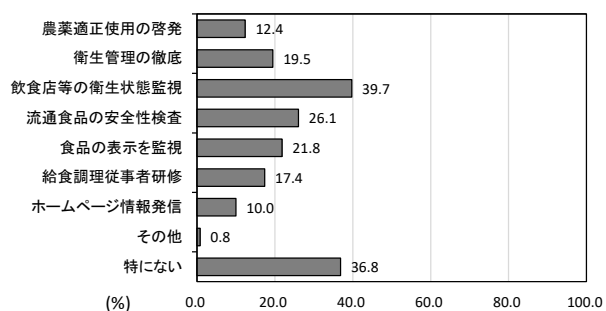
食の安全・安心の確保のためにやっている名古屋市の取り組みについて知っていることは、回答者全体では「飲食店や食品製造施設などの衛生状態について監視している」(42.9%)が最も多く、以下「特になし」(31.8%)、「市内を流通する食品の安全性について検査している」(25.3%)の順であった。

その他の意見としては、「立ち入り検査をする」の意見がみられた。

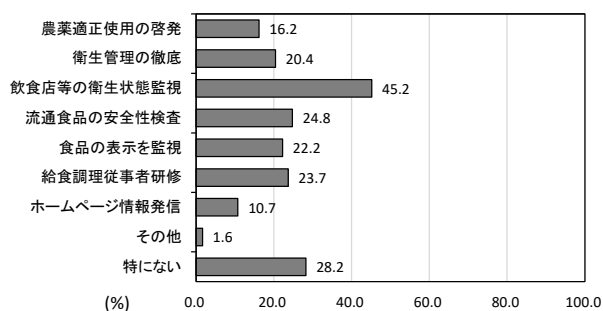
本市が行っていることを知っている(男女)
(複数回答) N=929



本市が行っていることを知っている(男性)
(複数回答) N=380



本市が行っていることを知っている(女性)
(複数回答) N=549

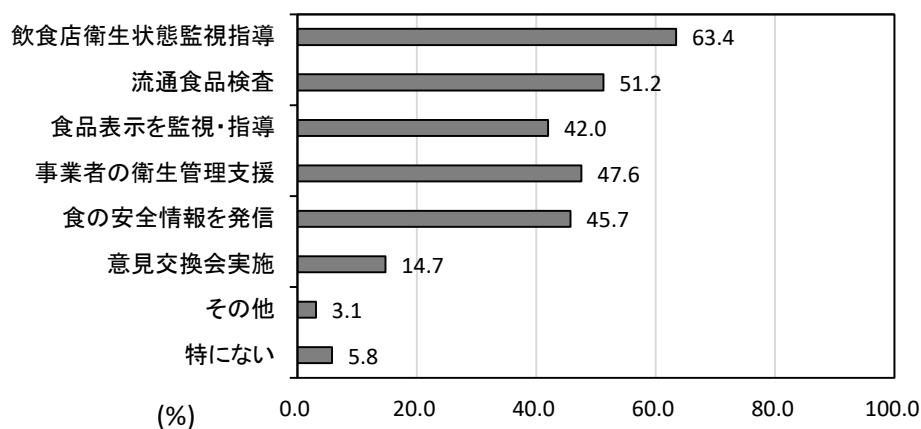


【問7】あなたは、食の安全を高めるために、名古屋市がさらに強化すべき取り組みは何だと思いますか。
(複数選択可)

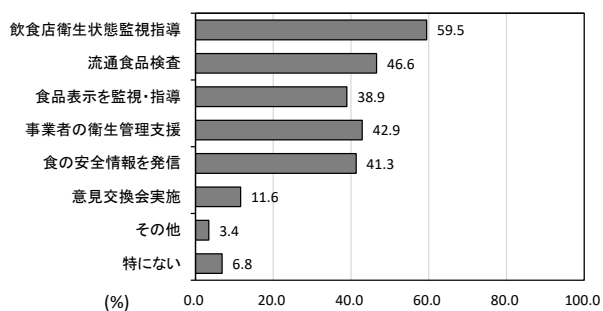
食の安全を高めるためにさらに強化すべき取り組みは、回答者全体では「飲食店や食品製造施設での衛生状態を監視し、指導する」(63.4%)が最も多く、以下「市内で製造される食品や流通する食品について、食中毒菌や添加物などの検査をする」(51.2%)、「事業者による衛生管理の推進を支援する」(47.6%)の順であった。

その他の意見としては、「公聴会」の意見がみられた。

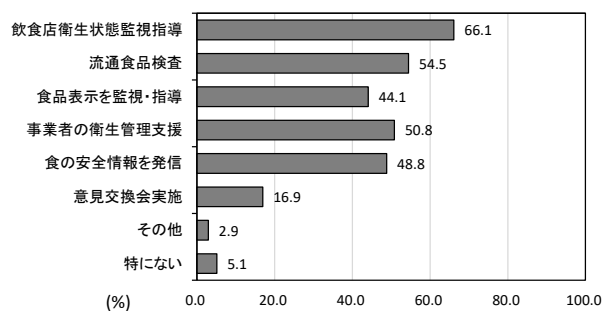
さらに強化すべき取り組み(男女)
(複数回答) N=929



さらに強化すべき取り組み(男性)
(複数回答)N=380



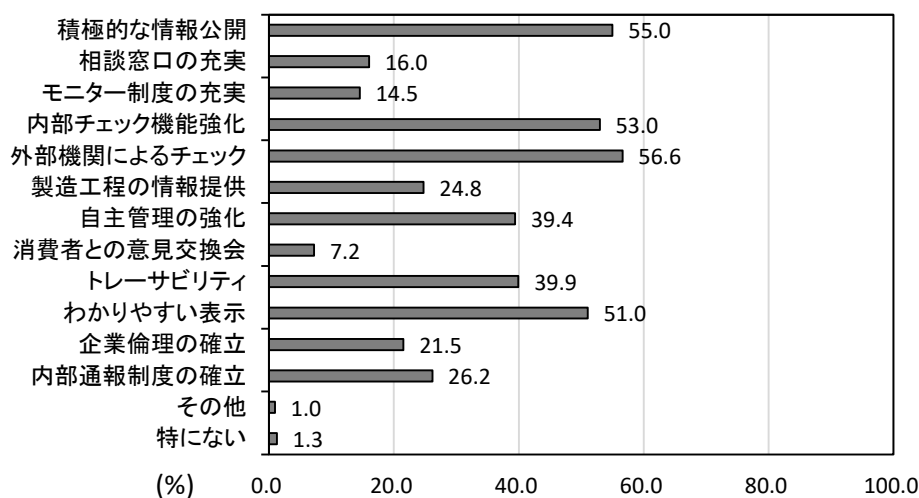
さらに強化すべき取り組み(女性)
(複数回答)N=549



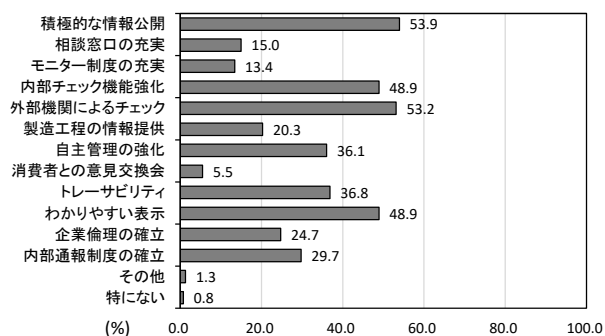
【問8】あなたは、食の安全を高めるために、事業者が、特にどのような点に力をいれていくべきだと思いますか。(法令を守ること以外についてお答えください)(複数選択可)

食の安全を高めるために事業者が力を入れるべき点は、回答者全体では「外部機関によるチェックの導入」(56.6%)「消費者に対する積極的な情報公開」(55.0%)が多く、以下「内部チェック機能の強化」(53.0%)、「わかりやすい表示」(51.0%)の順であった。
その他の意見としては、「自己の利益を考えないで消費者視点で行う」の意見がみられた。

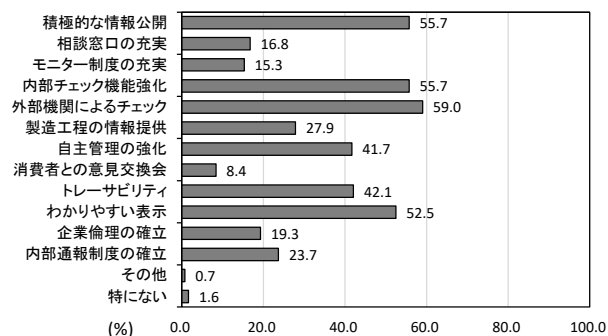
事業者が力を入れるべき点(男女)
(複数回答)N=929



事業者が力を入れるべき点(男性)
(複数回答)N=380



事業者が力を入れるべき点(女性)
(複数回答)N=549

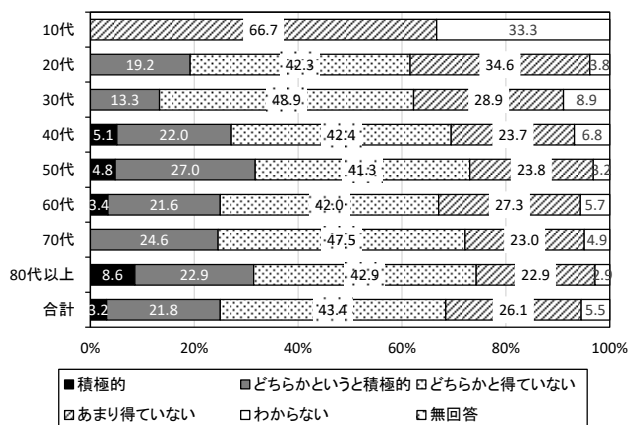


【問9】あなたは、食の安全に関する情報を、どの程度得ていますか。(一つ選択)

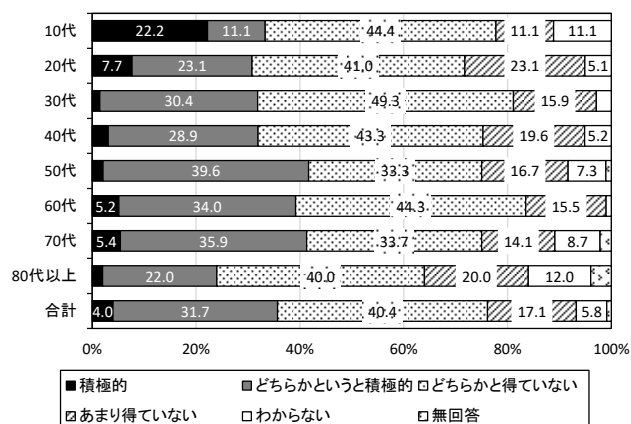
回答者全体では、「積極的に情報を得ている」は3.7%、「どちらかというと積極的に情報を得ている」は27.7%、「どちらかというと積極的には情報を得ていない」は41.7%、「積極的には情報を得ていない」は20.8%、「わからない」は5.7%であった。

性別にみると、「積極的に情報を得ている」または「どちらかというと積極的に情報を得ている」割合は男性が25.0%、女性が35.7%で女性のほうが高い結果であった。年代別にみると、「積極的に情報を得ている」または「どちらかというと積極的に情報を得ている」割合は男性では50代で、女性では50代～70代が多くなっていた。

食の情報を得ている程度(男性)



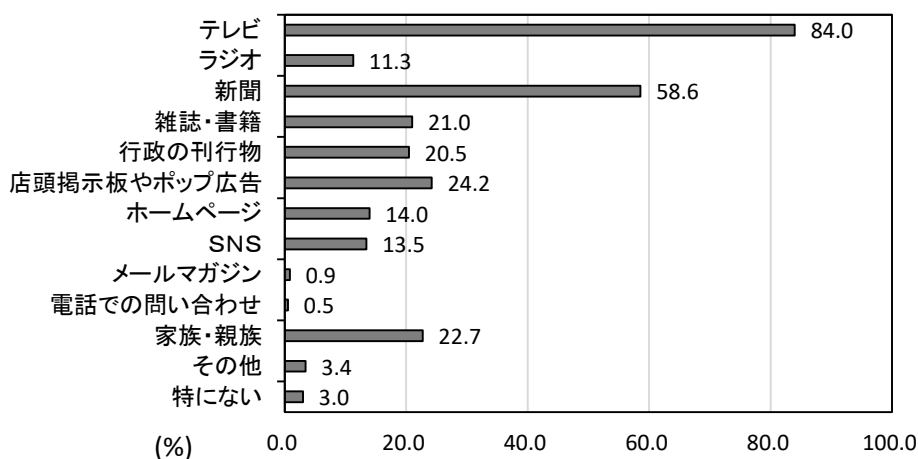
食の情報を得ている程度(女性)



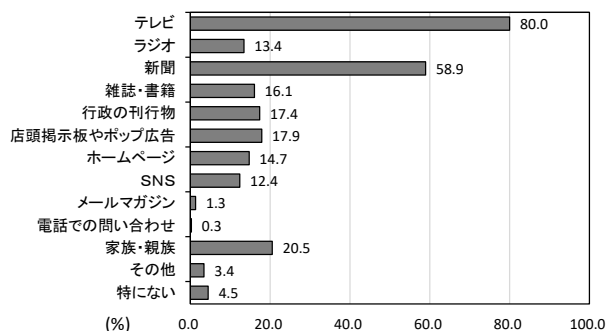
【問10】あなたは、食の安全に関する情報を、普段どこから得ていますか。（複数選択可）

食の安全に関する情報源では「テレビ」（84.0%）が最も多く、以下は「新聞」（58.6%）、「スーパーなどの店頭掲示板やポップ広告」（24.2%）、「家族・親族」（22.7%）の順であった。その他の意見としては、「井戸端会議」の意見がみられた。

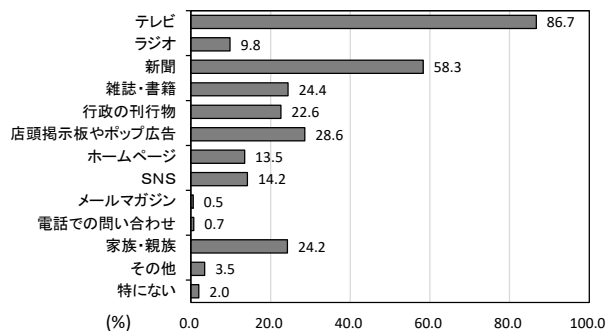
食の安全情報をどこから得ているか（男女）
（複数回答）N=929



食の安全情報をどこから得ているか（男性）
（複数回答）N=380



食の安全情報をどこから得ているか（女性）
（複数回答）N=549

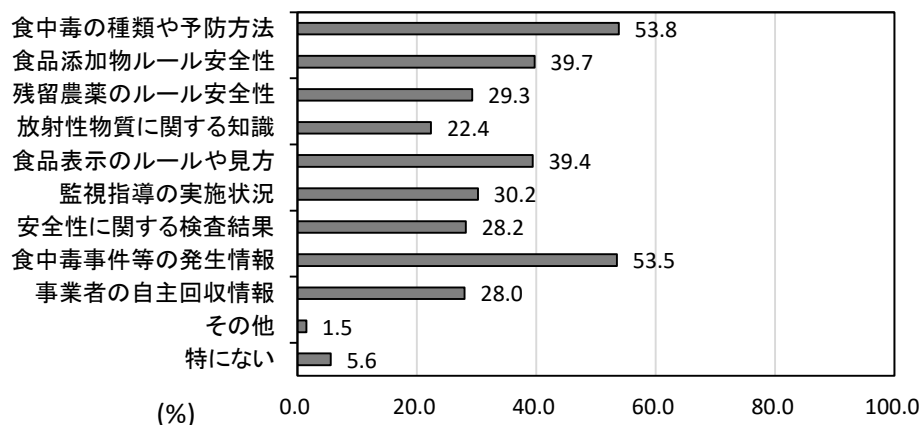


【問11】名古屋市では、食の安全に関する情報の発信に取り組んでいます。あなたが市から特に発信してほしい内容はどれですか。（複数選択可）

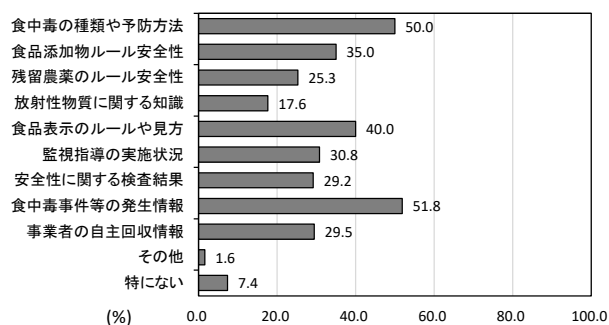
市から特に発信してほしい内容は、「食中毒の種類や予防方法」（53.8%）や「食中毒事件や違反食品の発生情

報」(53.5%)が多く、以下、「食品添加物のルールや安全性」(39.7%)、「食品表示のルールや見方」(39.4%)の順であった。その他の意見としては、「情報の迅速公表」の意見がみられた。

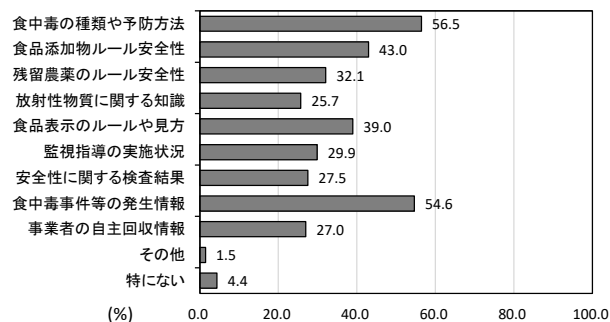
市から発信してほしい食の安全情報(男女) (複数回答)N=929



市から発信してほしい食の安全情報(男性) (複数回答)N=380



市から発信してほしい食の安全情報(女性) (複数回答)N=549

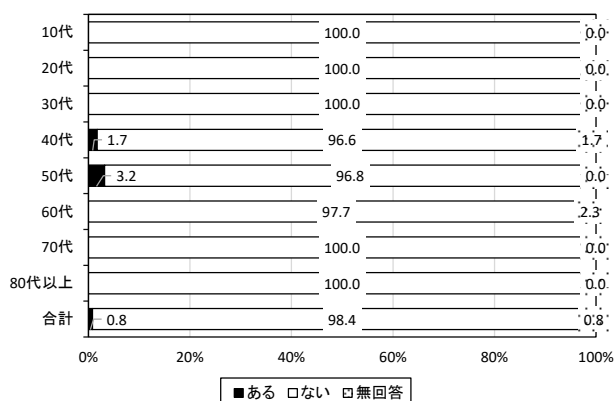


【問 12】あなたは、行政機関（保健所、消費生活センター、名古屋市よい食ダイヤルなど）に対し、食の安全に関する苦情や疑問を相談したことがありますか。（一つ選択）

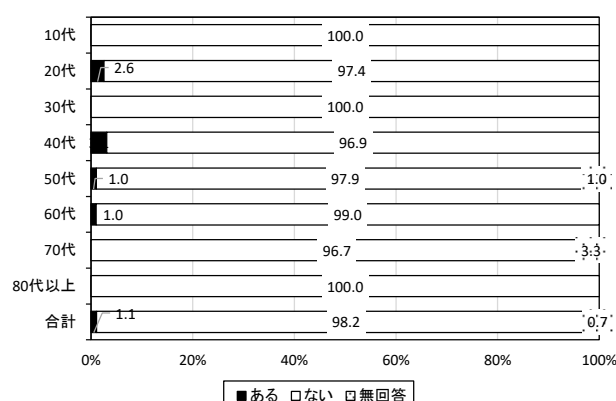
回答者全体では、苦情や疑問を相談したことが「ある」は1.0%、「ない」は98.3%だった。

性別・年代別にみると、男性の40代・50代以外で、女性では20代・40代～60代以外では相談がなかった。

行政機関に相談したことあるか(男性)



行政機関に相談したことあるか(女性)

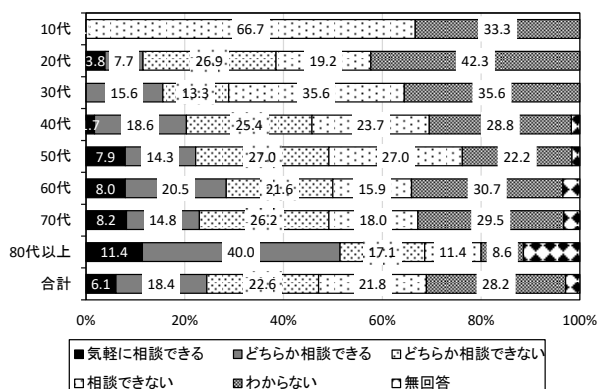


【問 13】あなたは、行政機関に対し、食の安全に関する苦情や疑問を気軽に相談できると感じますか。(一つ選択)

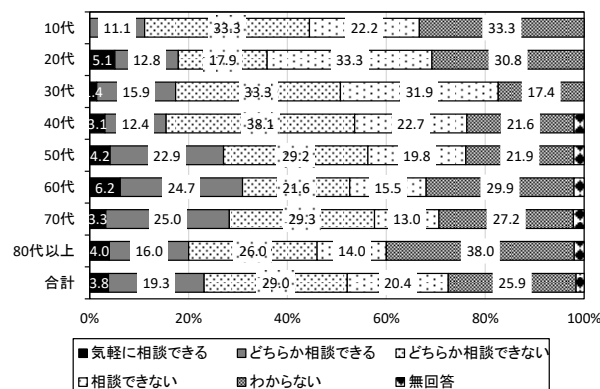
「気軽に相談できている」と感じている人の割合は、回答者全体の 4.7%、「どちらかというと気軽に相談できている」と感じている人は 18.9%、「どちらかというと気軽に相談できないと感じている」は 26.4%、「気軽に相談できないと感じている」は 21.0%、「わからない」は 26.8%であった。

「どちらかというと気軽に相談できないと感じている」と「気軽に相談できないと感じている」を合わせた割合を性・年代別にみると、男性では 50代 (54.0%) が最も高く、次いで 40代 (49.1%)・30代 (48.9%)、また女性では 30代 (65.2%) が最も高く、次いで 40代 (60.8%) となっていた。一方で母数は少ないが 80代男性の 51.4%、60代女性の 30.9%は「気軽に相談できている」と感じている または「どちらかというと気軽に相談できている」と回答していた。

行政機関に相談できるか(男性)



行政機関に相談できるか(女性)

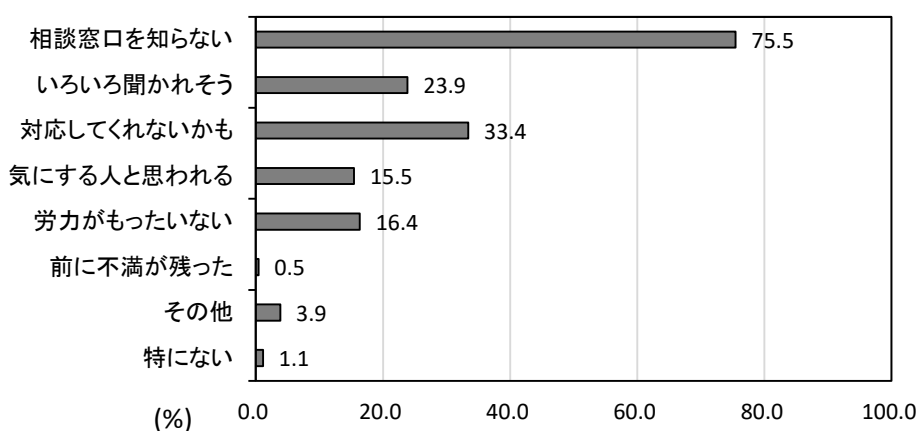


【問 14】 問 13 で、「ウ」または「エ」と回答した方にお聞きます。

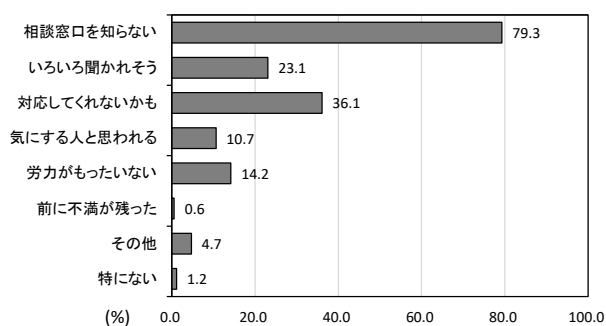
あなたが、相談できないと感じる理由はなんですか。（複数選択可）

問 13 で「どちらかというと気軽に相談できないと感じている」、「気軽に相談できないと感じている」と回答した 440 人に対して、相談できないと感じる理由を複数回答で尋ねた。「相談窓口を知らない」（75.5%）が最も多く、以下は「相談してもきちんと対応してくれそうにない」（33.4%）、「相談するといろいろきかれそうでいやだ」（23.9%）の順であった。その他の意見の記入はなかった。

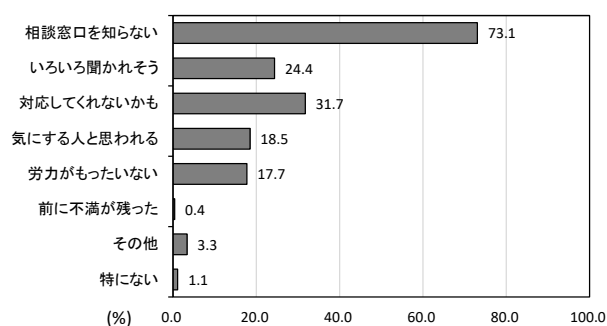
相談できないと感じる理由（男女） （複数回答）N=440



相談できないと感じる理由（男性） （複数回答）N=169

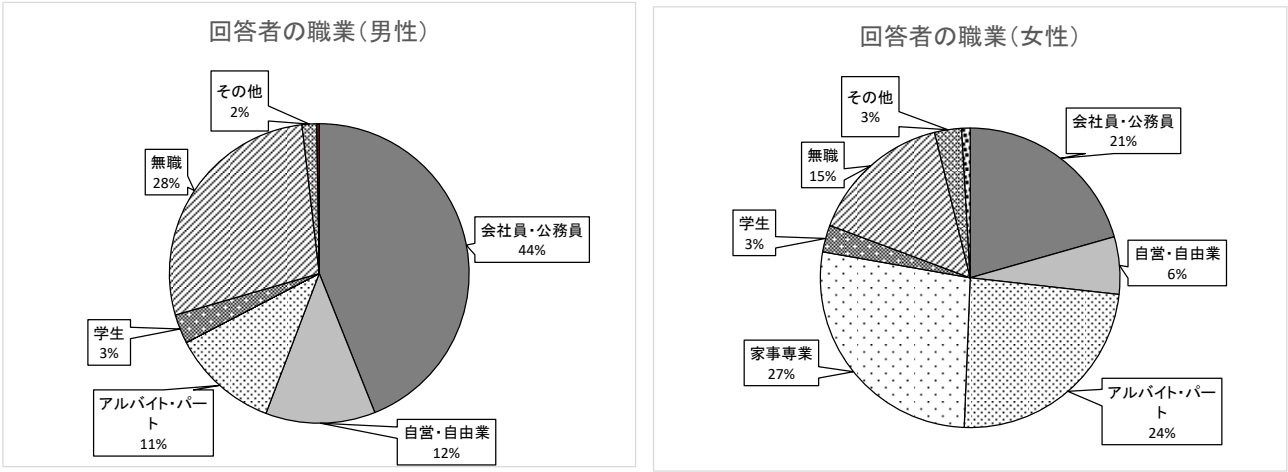


相談できないと感じる理由（女性） （複数回答）N=271

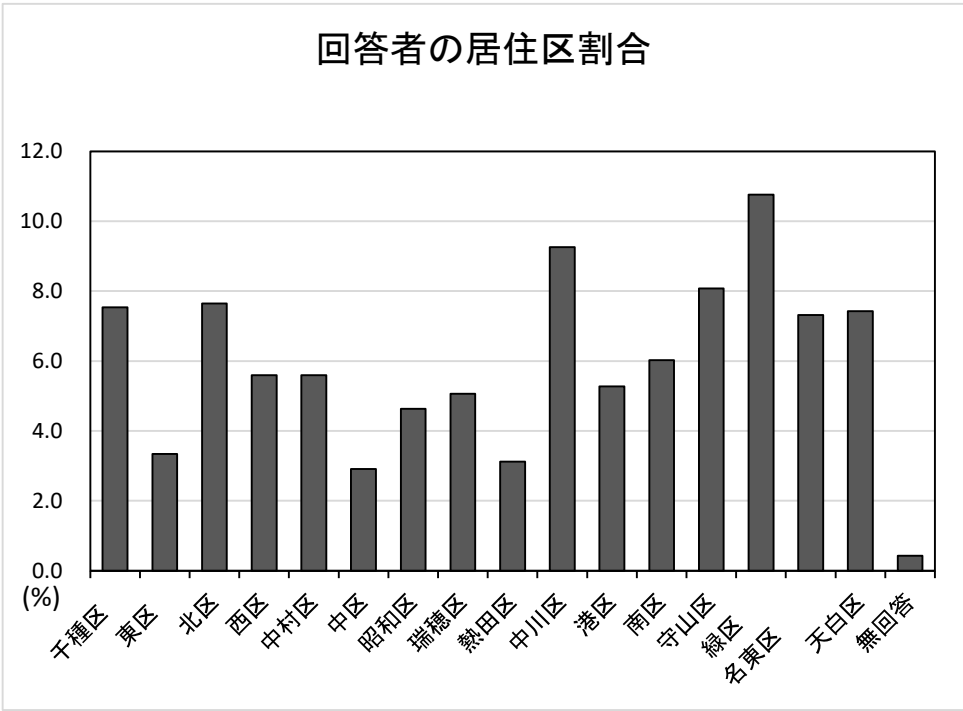


属性

[1] 職業



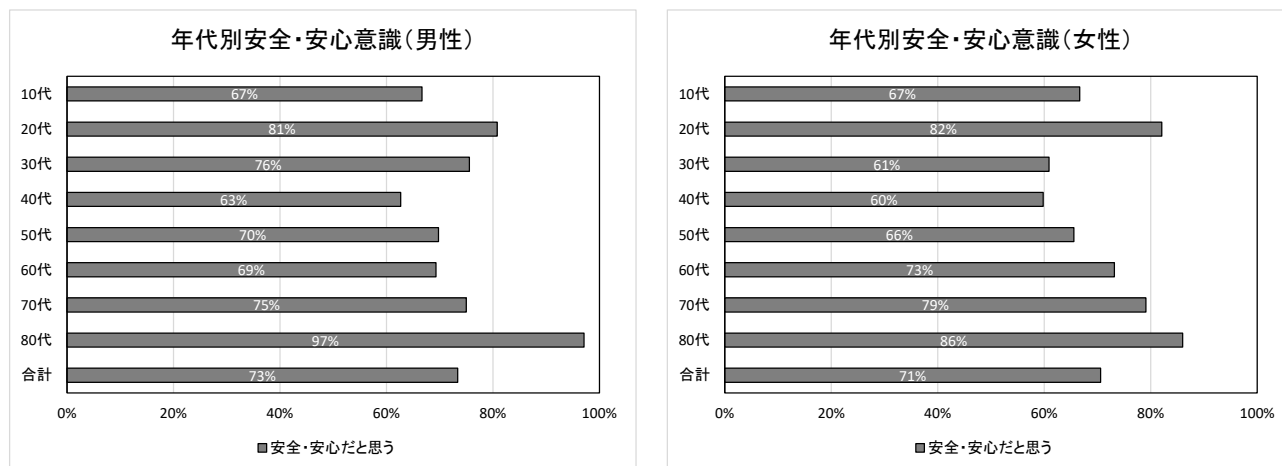
[2] 居住区



その他結果

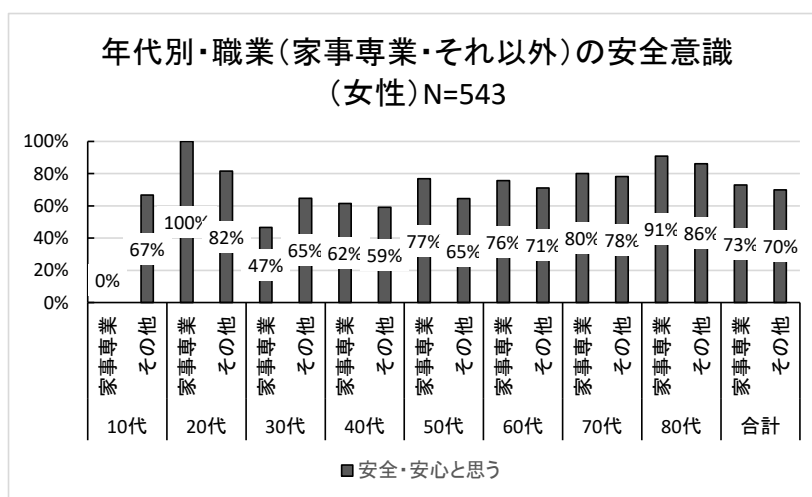
〔1〕年代別食の安全意識

問2で食品の安全安心だと思うかについて、「安全で安心だと思う」または「どちらかといえば安全で安心だと思う」群（以下 安心群）と無記名を除く「それ以外」群の割合とを性別・年代別に分析した。40代が男女とも安全・安心だと思う割合が低く、20代や80代で高くなっていた。



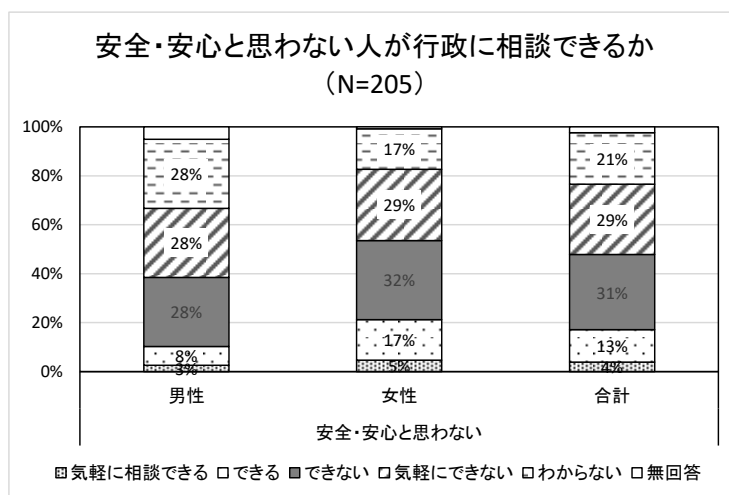
〔2〕家事専門の食の安全・安心意識

家事専門者の食の安全・安心意識を年代別にみた。全年代では73%が安全・安心と思っていた。年代別では子育て世代である30代は安全・安心と思う割合が46.7%と低かった。



〔3〕食は安全・安心と思わない人が行政に相談できるか

食品の安全・安心だと思うかについての問いで、「どちらかといえば安全で安心だと思わない」または「安全で安心だと思わない」群（以下 不安群）（N=205）が、行政機関に対し、食の安全に関する苦情や疑問を気軽に相談できるかについてみた。「どちらかというとも気軽に相談できない」と「気軽に相談できない」を合わせると 59.5%と過半数を占め、問 13 の全体（N=929）の 47.4%より高い割合であった。性別では、女性のほうが「どちらかというとも気軽に相談できない」または「気軽に相談できない」の割合が高かった。（男性 56.4%、女性 61.4%）

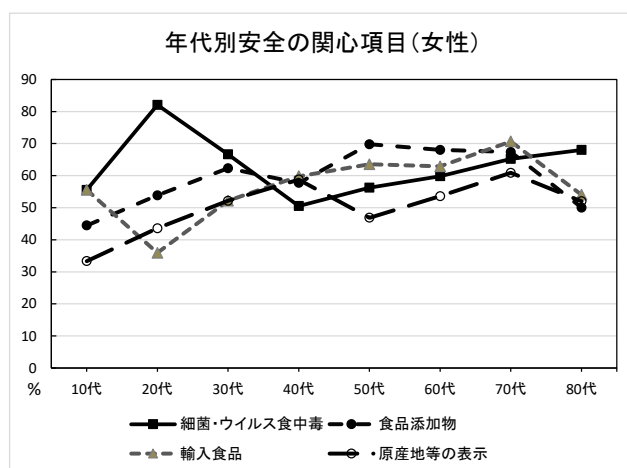
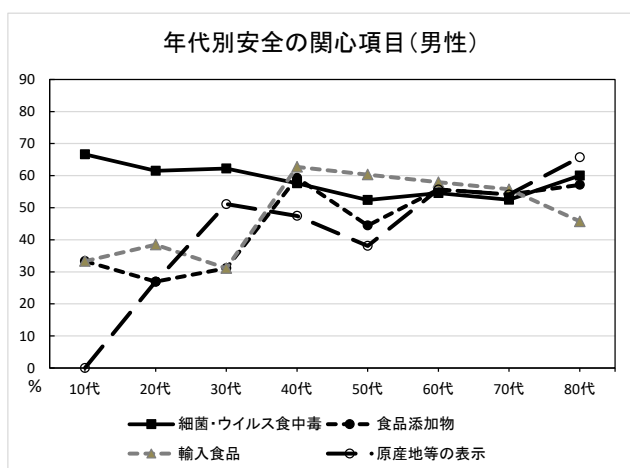


[4] 性別・年代別食の安全について関心のある項目の抜粋

問 4 で食の安全について関心のある項目についての回答で多かった項目を性別・年代別でみた。

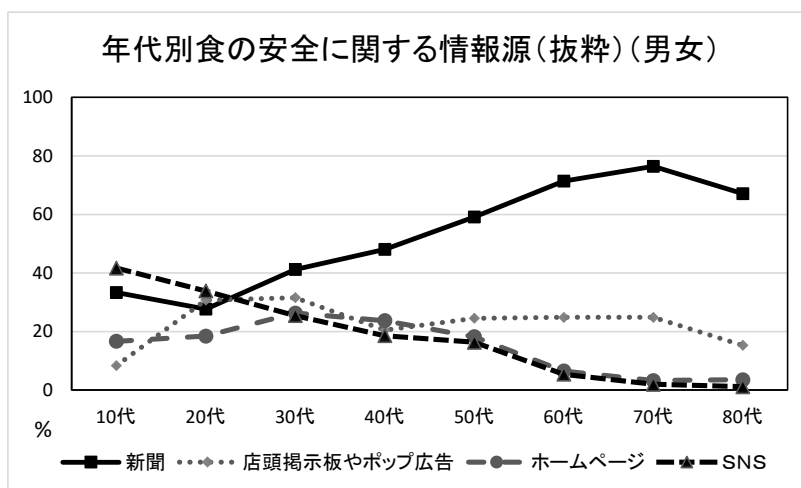
男性の場合、「細菌やウイルスによる食中毒」はどの年代においても高い割合で推移していた。「食品添加物」は 50 代で低下するものの上昇していた。「原産地等表示」は 30 代、60～70 代で 5 割以上に関心があった。「輸入食品」については 40 代をピークに緩やかに低下していた。50 代は他の年代に比べて 4 項目とも割合が下がる傾向があった。

女性の場合では、「細菌やウイルスによる食中毒」は 20 代で 82%と最も高く、30 代～40 代で低下しその後はやや上昇していた。「食品添加物」は 30 代～40 代が約 6 割、50 代以上が約 7 割を占めていた。「輸入食品」は年齢とともに上昇傾向であった。「原産地等表示」は 50 代でいったん下がるがその後は上昇傾向であった。



[5] 年代別食の安全に関する情報源の抜粋

問 10 で、全世代でテレビが最も高い割合での情報源であったが、世代による差を抜粋してみた。新聞は 20 代が最も低く 28%、その後年代とともに大きく上昇し 70 代は 20 代の 2.8 倍であった。店頭掲示板やポップ広告は 20 代～30 代で 30% 台であったが、それ以降は低下していた。他の年代では 20% 台前半で横ばいであった。ホームページは 30 代～40 代で 20% 台であった。SNS は 20 代～30 代が約 3 割であったが、40 代～50 代では 1 割、60 代以降は 1 割を切っていた。



		10代半												10代半												10代半													
		1000	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上	合計	1000	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上	合計	1000	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上	合計	1000	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上	合計		
【関1】食肉の購入や調理	全館販売	16.7	56.9	76.3	75.0	77.4	69.2	68.0	49.4	68.9	0.0	38.5	51.1	42.4	50.8	36.4	31.1	31.4	40.0	22.2	69.2	92.8	94.8	94.8	99.0	92.4	62.0	88.9											
	購入のみ	16.7	23.1	10.5	15.4	10.7	22.7	16.3	24.7	17.0	33.3	73.1	64.4	59.3	23.8	46.6	39.3	48.6	36.1	11.1	17.9	2.9	3.1	2.1	1.0	1.1	8.0	3.8											
	調理のみ	8.3	33.8	11.1	18.8	8.6	8.6	0.0	13.8	0.0	0.0	10.0	0.0	0.0	13.8	0.0	0.0	0.0	1.4	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0											
	どちらか一方	58.3	16.9	10.0	6.4	8.0	11.3	8.1	12.4	31.2	12.4	66.7	66.7	22.2	22.2	22.2	22.2	22.2	22.2	22.2	22.2	22.2	22.2	22.2	22.2	22.2	22.2	22.2											
	わからない	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0											
	無回答	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0											
	その他	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0											
【関2】流通食品、安全・安心	全館販売	8.3	7.7	7.9	3.8	8.8	8.6	13.7	18.8	9.5	33.3	7.7	11.1	3.4	12.7	9.1	9.8	17.1	10.0	0.0	7.7	5.8	4.1	8.3	8.2	16.3	20.0	9.1											
	どちらか一方	58.3	73.8	58.8	57.1	58.5	62.7	62.7	62.7	62.7	62.7	73.1	64.4	59.3	23.8	46.6	39.3	48.6	36.1	11.1	17.9	2.9	3.1	2.1	1.0	1.1	8.0	3.8											
	購入のみ	16.7	7.7	7.9	25.0	18.9	19.5	15.4	17.1	17.3	33.3	73.1	64.4	59.3	23.8	46.6	39.3	48.6	36.1	11.1	17.9	2.9	3.1	2.1	1.0	1.1	8.0	3.8											
	調理のみ	8.3	0.0	0.0	6.4	8.6	8.6	0.0	12.4	12.4	66.7	66.7	22.2	22.2	22.2	22.2	22.2	22.2	22.2	22.2	22.2	22.2	22.2	22.2	22.2	22.2	22.2	22.2											
	どちらか一方	8.3	10.8	6.1	7.7	7.5	4.9	4.6	2.4	6.1	0.0	7.7	6.7	3.4	9.5	6.8	6.6	0.0	6.1	11.1	12.8	5.8	10.3	6.3	3.1	3.1	4.0	6.2											
【関3】安全・安心と変わらない(流通販売用)	全館販売	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0											
	購入のみ	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0										
	調理のみ	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0										
	どちらか一方	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0										
	無回答	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0											
【関4】食肉の購入について、食肉が売っていないところ(複数選択可)	全館販売	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0											
	購入のみ	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0										
	調理のみ	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0										
	どちらか一方	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0										
	無回答	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0											
【関5】食肉の購入について、食肉が売っていないところ(複数選択可)	全館販売	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0											
	購入のみ	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0										
	調理のみ	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0										
	どちらか一方	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0																									

問い合わせ先

名古屋市保健所健康部食品衛生課

電話番号 052-972-2648